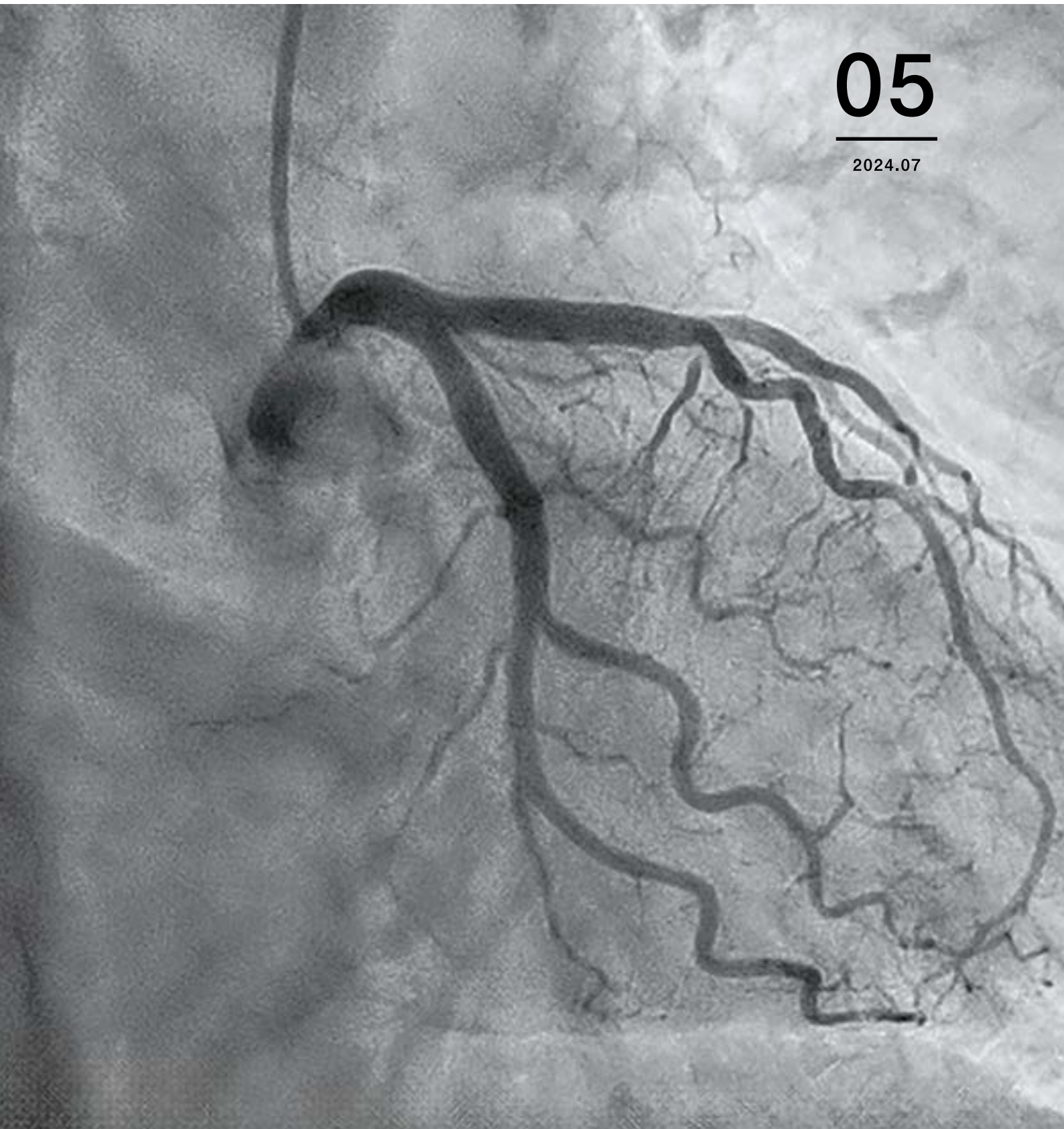


ARCH

SAISEIKAI NIIGATA KENOH KIKAN HOSPITAL

05

2024.07



循環する医療を目指して。

心臓や血管という、非常に重要な臓器を専門とされている循環器内科。命に関わる疾患に対応されることも多い中で、日々どのような姿勢で業務にあたっているか、循環器内科の部長である宮北副病院長にお話を伺いました。



副病院長
循環器内科 部長
宮北 靖
MIYAKITA YASUSHI

- 医学博士
- 総合内科専門医
- 循環器専門医
- 心臓リハビリテーション指導士
- 臨床研修指導医
- 産業医

心臓や血管という、非常に重要な臓器を専門としている循環器内科ですが、日々どのような業務にあたっているのでしょうか。

当院の循環器内科の医師は3名で、心筋梗塞や狭心症といった虚血性心疾患の患者さんに対して、緊急の対応をするということが第一に重要な業務です。新潟県は循環器内科の医師が人口当たり全国で一番少ないといわれています。当科も人口約20万人の県央地域を3名で診ることになりますが、心疾患は短時間での解決が求められるため、救急患者の受け入れは使命だと思っています。ただし当院で対応できない治療が必要と判断した場合は、新潟市や長岡市の病院へ搬送します。虚血性心疾患の他にも、循環器疾患としては心不全の患者さんが増えており、入院を繰り返している方が多い状況です。高齢でADL(※)も低下していて病気以外の問題も多くなるため、外来では病気の状態の確認の他、日常生活の相談、支援を行うケースワーカー、訪問看護師、ケアマネージャーなどの方々と情報を共有し、繋げていくことが必要となることもあります。日常生活を維持し再発や再入院を繰り返さないように可能な支援を行っています。

さらに心臓リハビリテーションも大事です。心筋梗塞などの虚血性心疾患をきたす動脈硬化の危険因子のコントロールのために、理学療法士と運動療法を行う他に、看護師や、必要であれば薬剤師や栄養士による生活指導を含めた包括的な心臓リハビリテーションを行っています。この手法は心不全の患者さんなどでも疾患コントロールに有用なので、今後積極的に行っていきます。

※「日常生活動作(活動)」のこと

県央地域の患者を診ていく上での課題や、意気込みを教えてください。

急性期の患者さんを受け入れることが当院の使命ではありますが、ただ受け入れてばかりでは病院の機能がパンクしてしまいます。患者さんにはいざれ退院していただかないといけないのですが、転院先の病院や、自宅・施設に戻るために必要な支援先との連携を上手く行っていく必要があります。当院でも努力はしていますが、スムーズな連携というのはまだまだ難しい状況です。救急患者の受け入れという入口は整備したのですが、出口をどう整備していくのかというのは、とても大きな課題だと感じています。

私たち3名の医師も救急患者の対応はできる限り行い、心不全などの患者さんの診療は手分けして診ていきます。当科の中では比較的若い渡邊先生が来てくれたので、今までになかった視点や技術、検査方法など新しいものを取り入れながら、ブラッシュアップしていきたいと思っています。

先ほどお話したように、患者さんの治療をはじめ社会復帰のためのリハビリや日常生活の支援を行うには、医師だけでは到底できません。病棟や外来の看護師、理学療法士、薬剤師、管理栄養士などがまとまって、ワンチームで活動していくことが大事です。そのためには新しい病院としてチームを再構築し、診療に邁進していきたいと思っています。



県央地域全体で心不全患者に立ち向かう

当院は「県央地域の患者は県央で診る」を使命に設立されました。循環器内科に求められることは多岐に渡りますが、急性心筋梗塞や急性心不全などの循環器救急は、非常に重要な責務となります。

また、診断群分類包括評価(DPC)対象病院のデータを用いた全国調査では、心不全の入院患者は増え続けており、心不全パンデミックと呼ばれています。特に80歳以上の割合が50%を超え、高齢化が進行。高齢者に対しては医学的な心不全治療だけではなく、生活環境・療養環境を含めた他職種との連携・協働が必要であり、当院では入院早期から多職種での介入を行っております。実際、増加している高齢心不全患者を前に、急性期病院のみでは対応できなくなってきており、今後は今まで以上に回復期病院、プライマリケア医(※)との双方向性の連携が重要です。さらに心不全を地域一体で管理する上では、心不全手帳や管理手帳のようなものを地域で作り、それを共通言語として、同じ管理指標で診ることを根付かせるのが必要で、そのためにはお互いの顔が見え、お互いの考えを伝えられる関係性の構築が求められます。このように病院完結型から地域完結型へ、県央地域一帯で心不全患者に立ち向かうことが必要といえるでしょう。

※一般的に「かかりつけ医」のこと



循環器内科 部長

渡邊 達 WATANABE TOORU

- 医学博士
- 日本内科学会認定医
- 総合内科専門医
- 内科指導医
- 日本循環器学会専門医
- 心臓リハビリテーション指導士
- 日本心臓インターベンション学会認定医
- 臨床研修指導医

脂質異常症は生活習慣の見直しが大切

比較的多くの患者さんにみられるのが、生活習慣病の一つとしてあげられる「脂質異常症」という疾患です。多くは運動不足や偏った食事、肥満などが原因で、成人以降に発症します。また、生まれながらの体質的な要因により、遺伝子の異常が原因で血液中にコレステロールや中性脂肪が異常に増えてしまう、家族性コレステロール血症などもあります。他にも糖尿病や内分泌疾患、肝胆道系疾患、腎臓病などに関連して発症する場合や、薬剤の影響で生じるものもあります。

脂質異常症を放置していると、血管壁に余分な脂が沈着。粥腫と呼ばれる塊を作って壁が厚くなり、内腔が狭くなって動脈硬化が進み、狭心症や心筋梗塞、脳梗塞の原因になることがあります。治療の基本は生活習慣の改善、食事内容やカロリーなどの見直しで、飲酒を控えめにすることと有酸素運動を取り入れた運動習慣が有効です。それでも十分でない場合には薬物治療を行います。スタチンといわれる薬剤が主体で、コレステロール吸収阻害薬などの内服治療、重症例にはPCSK-9阻害薬の注射、体外循環で成分を分離させて除去するアフェレーシスが行われることもあります。こうした治療も重要ですが、何よりも病気になることが大切なので、普段の生活から気を付けてほしいと思います。



循環器内科 主任診療科長

中村 彰 NAKAMURA AKIRA

- 難病指定医
- 臨床研修指導医



登録医のご紹介



ながば耳鼻咽喉科医院（加茂市）

〈院長〉長場 章 様 加茂市医師会会長

まず、御クリニックについて教えてください。

ながば耳鼻咽喉科医院は加茂市の耳鼻咽喉科医院です。1981年に父である先代の院長により開院され、2001年に医院を継承しました。日本耳鼻咽喉科学会の認定専門医と補聴器相談医、日本めまい平衡医学会のめまい相談医に認定されています。耳鼻咽喉科全般の疾患、めまい・平衡障害の診断治療を専門としております。

どのような患者さんが、こういった症状で受診されることが多いですか？

受診する年代は0歳から90歳代まで非常に幅広く、「みみ」「はな」「のど」など耳鼻咽喉科全般の症状で診察に來られます。件数で言えば、花粉症で受診される方が最も多いです。また私の専門性から、めまいを訴えていらっしゃる患者さんも多く来られます。

日々の生活の中で、気を付けた方がよい症状はありますか？

近年、難聴が認知症の最大のリスク因子であると言われております。聞こえが悪くなると感じたらそれを放置せず、早期に治療を行ったり補聴器をうまく使ったりすることで認知症のリスクを軽減できる可能性があります。また、めまいは当院で検査を行い耳鼻咽喉科的問題がない場合は、他の疾患の可能性について他科に紹介する窓口にもなりますので、ご相談ください。

日々の診療で心がけていること、大切にしていることはありますか？

患者さんがどのようなことで困っておられるか、疾患に対してどのような治療を希望されているかを最も重視しています。医師に話しにくいこともあるかもしれませんが、できるだけ患者さんのお話を聞くようにしています。

院内のつくり／設備でこだわっていることはありますか？

大きな窓で採光も明るく開放的な院内となっています。受診される患者さんへ少しでも癒しになるように、待合室や診察室から見える緑が美しい日本庭園風の庭のつくりこだわりました。待合室診察室には高性能の空気清浄機を配置し、感染対策にも心がけています。

地域にとってどんなクリニックを目指していますか？

私は現在加茂市医師会の医師会会長を拝命しており、加茂市上地区の病院、診療所の先生方との連携もスムーズで良好です。高齢者が多く、複数の病院や診療所に通院している患者さんも多い当地域で、病院や診療所との連携を密にして患者さんの治療に努めます。

最後に、済生会新潟県中央基幹病院との連携協力について、意気込みをお教えてください。

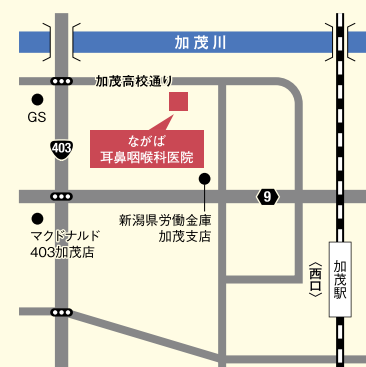
地域の救急医療、高度専門医療の中心となる県中央基幹病院の開院は、県民の皆様や医療関係者にとって長年の悲願でした。医師会長として、また自院の院長として、遠藤院長先生をはじめとする県中央基幹病院の先生方や医師会との情報交換を密に行い、診療所と病院の切れ目なく滑らかな連携・協力を努めたいと存じます。

ながば耳鼻咽喉科医院【耳鼻咽喉科・アレルギー科】

〒959-1314 新潟県加茂市番田8-16
診療時間／午前9:00～12:30(木曜日は12時まで) 午後15:00～18:00
TEL／0256-53-0751
アクセス／加茂駅西口から徒歩5分
休診日／水曜、土曜の午後・日曜・祝日
インターネットホームページ(右記QRよりご確認ください)



	診療時間	月	火	水	木	金	土	日
午前	9:00～12:30	●	●	●	● 12時まで	●	●	／
午後	15:00～18:00	●	●	／	●	●	／	／





〈今月号の表紙の写真について〉

こちらの画像は、当院の心臓血管造影検査で撮影したものです。
血管造影は、動脈や静脈を可視化し、状態を評価する検査です。



社会福祉法人

恩賜
財団

済生会新潟県央基幹病院

〒955-0091 新潟県三条市上須頃5001番地1
TEL.0256-47-4700 FAX.0256-33-8808
<https://www.kenoh.saiseikai.or.jp/>

病院のサイトには
右記QRより
アクセスしてください

